

中高年者のこころの健康についての学際的大規模縦断研究 - 予防へのストラテジーの展開

下方 浩史 (国立長寿医療センター研究所・疫学研究部・部長)

【研究の概要等】

日本の社会の高齢化は急速に進み、要介護の高齢者や認知症を有する高齢者が増えている。また社会的な負担が増大し、ストレスに対処できず鬱病になる中高年が増え、自殺者は毎年3万人を超えるようになった。本研究の対象は平成9年から2年ごとに追跡されている観察開始時年齢40歳から79歳の地域住民2400名である。施設内に設けた検査センターで年間を通して毎日7名に対し、医学・心理学・運動生理学・栄養学・遺伝子解析などの千項目以上にも及ぶ学際的かつ詳細な検査・調査が行われている。このデータを利用して中高年者のこころの健康問題、特に鬱や自立性・自尊心の低下、認知機能障害に焦点を当てて、その実態を明らかにする。また運動や栄養などの生活習慣、疾病との関連、家族関係、社会経済的要因、ストレスなどのとの関連についても検討し、さらに素因についてゲノム解析から検討を加えて、予防を主体にした、こころの健康問題への対応に関する新たなストラテジーの構築を目指す。

【当該研究から期待される成果】

中高年者のこころの健康に関するさまざまな背景要因データと最新のゲノム技術によるリスク解析により鬱や認知機能障害などの危険要因を明らかにすることができる。これらの結果からハイリスクグループを見出し、個人の状況に応じた効率的な予防を行うストラテジー開発が可能となる。また本研究で得られた中高年者のこころの健康に関する実態とあわせて、中高年者のこころの健康を守り、日本の高齢社会を豊かなものにしていくための重要な基盤となるものと期待される。

【当該研究課題と関連の深い論文・著書】

- ・ Shimokata H, Ando F, Niino N, et al.: Cholecystokinin A receptor gene promoter polymorphism and intelligence. *Ann Epidemiol* 15(3); 196-201, 2005.
- ・ Fukukawa Y, Nakashima C, Shimokata H, et al.: The impact of health problems on depression and activities in middle-aged and older adults: Age and social interactions as moderators. *J Gerontol B Psychol Sci* 59B(1); 19-26, 2004.

【研究期間】 平成18年度 - 22年度

【研究経費】 22,300,000 円

【ホームページアドレス】

<http://www.nils.go.jp/department/ep/index-j.html>